

北陸石仏の会々報

北辰星

滝本 やすし

「北辰星」をご存知だろうか。聞き慣れない言葉であるが、「北極星」と言えば知らない人はいないはずである。小学校の理科の時間で、すべての星は北極星を中心に回っていると学んでいる。それは地球の自転軸の延長線上に北極星があるために、そのように見えるのである。昔の人々にとって大地は動かぬものであり、天空上のすべての星たちが北辰星を中心として回っていることから、北辰星は神なる星として信仰されてきた。金沢市の旧制第四高等学校（現在の金沢大学）の校章は、四稜の北辰星をデザインしたものであった。

妙見菩薩は北辰星の化身とされており、北陸地方の寺院でもこの妙見菩薩を祀る堂が建てられているところがある。また、一月七日に星まつりが行われている寺院もある。この一月七日の、一と七との数字は、それぞれ北辰星（北極星）と北斗星（北斗七星）に由来するものなのだろうか。北陸地方にも、「北辰星」と刻まれた石塔がみられる。

滑川市加島町の加積雪嶋神社境内に、十基ほどの石塔が並んで建てられている。このあたりは昔、大岩不動（日石寺）への分かれ道であり交通の要所だったので、多くの石仏や石塔が建てられた。その中に「北辰星」と刻まれた石塔がみられる。

砂岩製の川石で、中央に大きく「北辰星」と刻まれている。その左側に



加積雪嶋神社「北辰星」

写真提供 平井一雄氏

文字が刻まれているのだが、磨滅していて読み取れない。この石塔は南西向きに建てられているのだが、街道を背にして建てられていることから、後に神社境内に寄せ集められたものと思われる。どのような経緯で建てられたのかは不明であるが、すぐそばが海であり、航海にもっとも大切である北の方角を示してくれる北辰星は、やはり神なる星だったのである。

金沢市東山二丁目の曹洞宗宗龍寺の本堂前に石室が建てられており、その中に「北辰星」と刻まれた石塔が納められている。石室は凝灰岩製で、南向きに建てられており、中の「北辰星」と刻まれた石塔も同じ凝灰岩製である。



宗龍寺「北辰星」

この「北辰星」と刻まれた石塔は、高さ約三十六センチメートルの八角柱で、上部が宝珠形である。石室の屋根をどけて中の石塔を取り出してみると、裏面に「文政三庚辰歳五月朔辰辰辰刻」と刻まれていた。辰年の、朔日（一日）が辰である日を選び、辰の刻（午前八時頃）に建てられているのである。しかしこの他には銘文が入っていないので、造立の詳しい経緯については不明である。

この石室が南向きに建てられているのは、中に納められた「北辰星」の石塔を北に向かって拝むためであろう。ここは卯辰山寺院群の奥で、谷になっており、この場所から北辰星は見えない。北辰星が見える場所ならば、その星を拝めば良いのである。北辰星が見えない場所だからこそ「北辰星」と刻む石塔を建てたのではなからうか。

第39号

平成23年9月15日発行

編集と発行

北陸石仏の会

(日本石仏協会北陸支部)

代表 北村市朗

〒939-1315

富山県砺波市太田

1770 尾田武雄方

電話 0763-32-2772

振替 00740-2-11974

(年会費 3000円)



妙見菩薩

新纂佛像圖鑑より

旧大沢野町(富山市)吉野の名号塔

平井一雄

神通川第一ダムの東岸、越中・飛騨街道東道沿いにある集落、富山市吉野は江戸期、加賀藩領に属し天正初年から文化年間まで越中七金山の一つ吉野銀山があつて、最盛期のときは家数一千軒ばかりあつたというが文化八年には衰退し、山師九軒になつたという。昭和二十七年北陸電力の電源開発に伴い、神通川第一発電所・神通川第一ダムの建設が始まり、蔵王神社を含めた十九戸が水没することになり、丘の上に移転した。

野菊の会発行『分校物語』に故山岡勇次氏が描かれた移転前の吉野集落の家屋位置絵図が収録されている。

写真①の石仏群は「石碑」と道祖神の祠として描かれている。

写真②の名号塔は南無阿弥陀仏の六字名号であるが、この地方に点在している徳本行者や義賢行者と違った書体である。写真③は時宗創始者の一遍上人の書体と言われるもので紀州熊野萬歳峠の名号石の拓本であるが阿弥陀仏の書体が似ているように思う。



写真①



写真②



写真③

萬歳峠の一遍上人「南無阿弥陀佛」拓本

左下方に桂堂書(花押)がある。左側面には

天保十年龍舎己亥五月建立

願以此功德 普及於一切 我等與衆生 皆共成仏道

當村 施主 柿下源五良

この願以此功德云々の偈頌は普廻向(ふえこう)といい読経の最後に唱える言葉であり、浄土宗、浄土真宗以外の宗派、禅宗や真言宗で用いられる。原典は法華経である。浄土宗・浄土真宗では「願以此功德 平等施一切 同發菩提心 往生安樂国」一善導大師『觀無量壽經疏』を回向句として用いている。

さて「桂堂」とは何者か、長い間わからなかった。六字名号は東猪谷の浄土宗「宝樹寺」関連の僧かとも考えたがこの回向句からいえば、浄土系ではないとも言える。

別の目的で富山市史天保時代を見ていたら「前田利幹時代」天保六年の終りの人物誌に「○桂堂和尚」が載っていた。

○桂堂和尚

桂堂應物和尚ハ光嚴寺第三十三世ノ住職ニシテ、伊勢ノ人ナリ、容貌魁偉、禅學ニ精通シ、大悟徹底、言行一々他ノ儀表トナル、當時日本全國禅門ノ碩徳ヲ問ヘバ何人モ先ツ指ヲ桂堂ニ屈シ、同門ノ僧親シク法ヲ桂堂ニ聴カザレバ我ガ修養ニ缺クル所アルガ如ク思惟シ、寺内ノ雲水常ニ二百餘人、住職タルコト二十餘年、聲望隆々、光嚴寺中興ノ大禅師ト称セラレタリ、嘉永元年二月十日病没ス、年八十餘、桂堂時々蘭及達磨ヲ畫ク、素養アルニアラズト雖モ亦觀ルベシ。以下略

富山市史 明治四十二年九月発行 富山市役所 復刻版

時代も宗派からも、この吉野の名号塔を書いた桂堂と同一人物と言えるのではなかるうか。高名な宗教家の書体が喜ばれるという、また施主柿下源五良もこの時代に姓を名乗っている。當村とは言いながら立派な名号塔を建立している。ただものではないと思う。東茂住に柿下旅館があつたという。また鉾石関係運搬の重要人物とも考えられる。今後の課題として調べ続けていきたい。

吉野の名号塔に関する資料

郷土研究大沢野町「ふるさと下夕南部」野菊の会より
伝説 吉野籠の渡し場の大蛇 笹川慶治

翻刻 平井一雄

吉野の籠の渡しの場所は現神一ダムの下にあります。私が十才頃聞いた話です。今から百七十年位前のころでしようか。村に廿五、六軒位の家があったじぶんのお話です。

茂住の住人で柿下という人が吉野銀山の鉦夫として吉野へ稼ぎに来て定住していました。柿下という姓で名前までわかりませんが川での漁獵が盛んな頃のある日、柿下さんが川へ鮎か鱒かわかりませんが、魚を捕りに行きました。籠の渡しの下の川原で流れを眺め漁場をどこにしようかと川上を見たり、川下を見たりして思索しておりました。

虫の知らせか、フト上流の大岩の方を見るとアーラー恐ろしや、大きな大蛇がその岩に幾重にも巻きついて、こちらをにらみ、赤い舌をべらべらと出して形相物凄く今にも飛びかからんばかり、柿下さんは余りの恐ろしさに身体がこわばり、心臓が止まったかのように動かれず、顔は青ざめてしまいました。後日その事を他人に語ったということです。本人は今迄、山や川で生き物を殺生したことのためと悟り、今後一切、獵を止めることを決心したとのことです。現在吉野橋近くの六地藏のそばにある舟型のお地藏様は本人が後世までもとの願いを込めて建立したと伝えられています。その後、柿下家の人が佛心厚く「六字名号塔」を建立されました。苔むした側面に天保十二年巳亥五月當村施主柿下源五郎と古字が残されています。



吉野の桂堂名号塔 左側面



吉野の桂堂名号塔 正面

第42回例会(高岡市伏木く氷見市の石仏めぐり)に参加して

長谷 かおり

今回石仏を巡るのは、私の育った町、高岡市伏木を中心に氷見方面までということ、案内していただく箇所はいずれも私にとっては馴染みのある小路やお寺などです。ランドセルを背負って道草を食っていた道端でどんな石仏と出会えるのか、とても楽しみにバスに乗り込みました。

伏木は、七世紀末の越国分割の際に成立した越中国の国府があった所とされ、現在、勝興寺がある高台を中心に国庁跡、国守館跡、国分寺跡といった遺跡が数多く残っています。天平十八年(七四六)から国司として赴任していた大伴家持が、赴任期間たった五年間で二百二十首もの歌を詠み(当時の越中国は大きな勢力も無く平穏だったため、国司には趣味に没頭する時間がたつぷりあったようです)、その後の万葉集の編者となるきっかけとなった地としても知られています。

越中国分寺跡。国分寺は天平十四年(七四二)、聖武天皇の勅命によりこの地に建立されました。その形跡を残す建物や礎石はありませんが、昭和十一年の調査で奈良時代後期の国分堂式の古代瓦や、鉄製扉鉋などが発掘されています。現在は小さな薬師堂があり、境内にある弘法大師千回御忌報恩塔や四国霊場石仏などを拝見しましたが、残念ながら本堂も境内もあり手が入っていない様子。歴史的にも貴重な遺跡ですし、もう少しだけでも手厚い保護を

と心で願いながら次の目的地へ向かいました。後から調べたところによると、入れなかった本堂内には本尊の薬師如来像の他にも平安時代に制作された帝釈天像や鎌倉時代に制作された文殊菩薩像、また、南北朝時代に作られた県指



越中国分寺跡 弘法大師千回御忌報恩塔

定重要文化財の文殊菩薩などが所有されているのだそうです。唯一拝見できた、外廊下で雨ざらしになっていた随分と古そうな木造の薬師像も、これらの貴重な寺宝の一つだったのでしょいか。手厚い保護を、どうぞお願いします!

次は伏木小学校周辺へ。高野山真言宗光暁寺には、溶けかかった石に「水天」の象形文字が彫られた碑がありました。信仰対象物としての歴史的价值は全く解らずとも、こういったプリミティブアート(原始的芸術)を感じる造形物には



光暁寺 「水天」

特に惹かれます。この単純で素朴で分かりやすいメッセージに、市井の人々は心を開き、そして通わせてきたのではないのでしょうか。

伏木神社の狛犬もなかなかのプリミティブです。時代は鎌倉まで遡る社宝だそうです。島根で産出される来待石でできていて、うーんとノビをしている形状も出雲構え獅子というらしく、出身は出雲のようです。伏木神社の起りは天平時代(こちらもまた天平です)、現在地から北方に下った海岸近くに、海の鎮護神として伊勢神宮より勧請を受けて創建された神明社だそうです。江戸末期の文化十年(一八一三)に遷座された現在地は、越中国府別館の跡地になります。どうやら伏木の高台に位置する歴史的建造物の多くは国府跡地に建てられているようです。海岸沿いを除くほとんどいつても良さそうです。国府つて広がったんですね。石川県庁は十九階建てですから、その部署を全部平屋に配置して、知事公舎やら県関連機関を全部集めたらそのくらいの面積になるのでしょうか。

見どころの多い伏木の町を駆け足で巡り、昼食の後、太田地区へ向かいます。桜谷古墳は四世紀末から五世紀初めに築造された富山県内最古の古墳です。内部は未調査ですがこの地方の有力首長の墓と考えられています。グーグルマップで上空から眺めるとくつきりと見事な前方後円墳が残っています。古墳近くの路傍に石造の祠がありました。祠と言えるのかどうかわかりません。粗く切られた石板が左右の壁と屋根の形を作っているだけ

で、その中で六体の地蔵がなんとか雨風を凌いでいます。そのストーンヘンジのような形をした苔むした石祠を撫でながら、同行の石井嘉之助先生が発した「これ、石棺ですな」の一言で、プリミティブ好きな私の好奇心メーターはマックスへ。桜谷古墳と石棺でできた祠との関係は解らないままでですが、こんなふうに予期せぬ場所でふいに私の好奇心の扉を開いてくださるのが、石仏の会例会の面白さです。

この日最後に巡ったのは氷見の朝日山周辺。朝日山の北と南に位置する千手寺と上日寺は、いずれも高野山真言宗、天武九年（六八二）創建と伝えられています。なんと飛鳥時代へ突入しました。千手寺側の入り口では閻魔大王や酒飲み地蔵が怪しくお出迎え。参道階段を上がり切ると、境内には四国霊場石仏、青面金剛、金比羅大権現などが並び、とても賑やかです。散歩を楽しみながら朝日山公園を縦断し南方に下りていくと、上日寺の奥庭に入ります。樹齢千三百年を超える大銀杏で有名な寺ですが、山肌に奥深く広がるお庭の広さ、そこに点在するお堂と石碑の数々には驚かされました。四国霊場石仏、西国三十三所観音、稲荷大明神、こちらにも閻魔王。千手寺と合わせて一生涯のご利益をいただけそうです。

今回の石仏巡りは、子どもの頃の思い出が詰まった場所で、当時は気がつかなかった貴重な石仏たちと出会え、個人的に大変充実した例会でした。もちろん私が気がつかなかっただけで、石仏は当社から



千手寺 青面金剛(庚申)



上日寺 西国三十三ヶ所観音

そこに居て、祖母と手をつないで歩いていた私のことを、そっと見守ってくれていたのです。さらに、祖母が子どもだった頃のことや、もっと遠い過去の人々のことも、また、これから生まれてくる人たちにとっては、石仏と見守り続けてくれるのでしよう。



上日寺にて記念撮影

北陸石仏の会 第42回例会 高岡市伏木～氷見市の石仏めぐり
平成23年5月22日(日) 雨のち曇り

- ◎高岡市伏木古府 梅林寺(曹洞宗)／准胝観音、双体地蔵、半跏地蔵、聖徳太子
- ◎高岡市伏木一宮 越中国分寺跡(真言宗国分寺派)／弘法大師千回御己報恩塔、四国霊場石仏、半跏地蔵
- ◎高岡市伏木東一宮 光暁寺(高野山真言宗)／「水天」
- ◎高岡市伏木東一宮 伏木神社／狛犬
- ◎高岡市伏木東一宮 路傍／「水神」
- ◎高岡市伏木東一宮 路傍／三猿
- ◎高岡市伏木本町 浄土宗伏木教会(浄土宗)／光導名号塔
- ◎高岡市伏木本町 妙見堂(日蓮宗)／題目塔、「開運妙見宮」
- ◎高岡市伏木古府2丁目 八幡社／如意の渡し碑
- ◎高岡市伏木古国府 妙法寺(本門法華宗)／弥勒布袋尊、馬頭観音
- ◎高岡市伏木古国府 路傍／ふるこ馬頭観音
- ◎高岡市太田 路傍(桜谷古墳近く)／三面金神(三宝荒神の庚申塔)、六地蔵、名号塔
- ◎高岡市太田 国泰寺(臨済宗国泰寺派)／仏足石
- ◎氷見市南大町 西念寺(浄土宗)／徳本名号塔、地蔵、中世石造物群
- ◎氷見市幸町 路傍／酒飲み地蔵
- ◎氷見市幸町 千手寺(高野山真言宗)／四国霊場石仏、青面金剛、中世石造物群
- ◎氷見市朝日日本町 上日寺(高野山真言宗)／厄よけ地蔵、西国三十三ヶ所観音、四国霊場石仏、中世石造物群

牧姫塚の石塔

滝本 やすし

牧姫塚

石川県小松市の南部、粟津温泉街近くの牧口町の水田の中に牧姫塚がある。またここは蟬丸塚という説もある。町内の八坂神社が所有、町内会で管理されており、この塚の中に建てられている五輪塔一基が市の文化財に指定されている。またこの五輪塔の他に、五輪塔の残欠二点、灯籠二基、光導名号塔一基が遺存する。

牧姫

牧姫は平安時代末期の皇女と伝えられるが、詳細は不明である。訳あって都よりこの地に流され、この場所で没したとされている。五輪塔は牧姫の供養塔として建てられたと伝えられている。

蟬丸

蟬丸は平安時代前期の歌人で、滋賀県大津市の逢坂の関に庵を構えていた。歌を詠みながら旅を続けていたのだが、福井県越前町(旧宮崎村)野の農家で滞在中に病死した。遺言に従い、その場所に蟬丸の墓が建てられた。宝篋印塔の残欠と五輪塔の残欠等とを組み合わせたとみられる石塔三基が並んでおり、すぐそばには、小倉百人一首でお馴染みの「これやこの行くも帰るも分かれては知るも知らぬも逢坂の関」の歌碑が建てられている。しかし蟬丸が小松市牧口町に訪れた記録は見当たらない。

牧姫塚の五輪塔

昭和四十年に市の文化財に指定されている。地上高九十三センチメートルほどの花崗岩製で、水輪には三体の坐像が陽刻されている。中央の像がやや大きいことから、これらは主尊と脇侍とみられるが



像容は不明である。火輪や水輪の形状により、南北朝時代から室町時代にかけての造立と考えられる。花崗岩はこの近隣では採取されない石材なので、この五輪塔は県外から搬入されたものであろう。

牧姫塚の光導名号塔

光導名号塔は、五輪塔のすぐ横に建てられている。地上高八十八センチメートルほどの砂岩製で、粗く四角柱に加工されている。正面に大きく独特の丸い文字で「南無阿弥陀佛」と刻まれているのだが、その下は土中に埋まっており、光導の署名や花押が入っているのかはわからない。左側面には「明治十・六月・建之・奉・蟬丸」の銘が読み取れ、蟬丸の供養塔として建てられたことがうかがえる。

蟬丸は生没年不明であるが、旧暦五月二十四日に没したと伝えられ、新暦では六月二十四日が蟬丸忌となっている。この名号塔は「六月建之」と記されているので、蟬丸忌にあわせて建てられたのであろう。

光導名号塔の多くは天保年間から嘉永年間に建てられており、晩年である明治十年は異例なほど遅い造立である。光導は明治十年九月に、三光院を弟子の光念に譲ったと考えられるので、その三ヶ月ほど前の造立である。那谷の三光院から近いので、光導が造立に直接関与した可能性が高いのではないかとと思われる。



光導名号塔正面



光導名号塔左側面

富山市婦中町常楽寺の西国三十三ヶ所観音由来

北陸石仏の会研究紀要第10号北村会長の報告を受けて婦中町常楽寺の三十三ヶ所観音を確認してきました。参道の長い階段に行儀よく並べてありました。幸い由来の案内板が設置されていきましたので内容を翻刻して、この会報で報告します。

北陸石仏の会研究紀要第10号 P.18. 北村会長原稿

19.在家 今立郡池田町 浄土真宗

この三十三ヶ所観音は隣町であるが、取り上げたのには理由がある。北陸石仏の会に共通した事であるからである。それはこの在家の家に三十三ヶ所観音の笏谷石製の石仏があった。この在家は、もともと浄土真宗のお宅で石仏の三十三ヶ所観音があることが、宗派としては疑問が残るといふ事が理由、いきさつはわからないが、富山県婦中町の有名な寺である常楽寺に移ったとの山本氏の報告である。三十三体の観音が現代では簡単に移すことができるが、それにして余り例のない話だ。

いつの日か北陸石仏の会会員によって判明することと思いつつ、この項を書きとめた。安住の地でどのよう形になつていのか早く知りたいものだ。



写真 2009.10.1 撮影 平井一雄



平成二十三年七月十七日調査 平井一雄

由来

このたび、常楽寺参道に安置されました虚空蔵菩薩、摩利支天 観音菩薩三十三軀の仏像は、江戸時代の天保十年（一八三九年）前後、福井縣今立郡池田町板垣の徳信家 橋本嘉兵衛氏によって造られ祀られていたものですが、故ありて明治初期、同じ徳信家であった福井縣今立郡服間村柳（現 越前市元柳町）の國定嘉右衛門氏に委譲され、その所有する山にて百二十年余に亘ってお祀りされていたものであります。

平成二十年十月仏縁ありて
 四代目國定嘉右衛門氏より
 風雨順時 五穀豊饒 万邦協和
 六親眷属 家門繁栄 を祈念し
 当寺に移設されたものである。
 常楽寺

北陸石仏の会 第43回例会のご案内

— 石の里・小松市の石仏めぐり —

平成23年10月16日(日)

参加費：5000円(バス・資料代)

集合場所：①大沢野文化会館 7時00分 ②JR砺波駅南口 7時50分
③JR金沢駅西口 8時40分 ④高速道徳光上りPA 9時10分
⑤JR小松駅東口 9時30分

申込方法：次の事項を記入の上、ハガキでご連絡ください。

住所、氏名、電話番号(携帯電話も)、集合場所

申込先：〒939-1315 砺波市太田1770 尾田武雄方 北陸石仏の会事務局

締め切り：平成23年10月9日

戸室石(金沢市)、水田丸石(加賀市)等と共に石川県を代表する滝ヶ原石、日華石の産地である小松市の石仏・石塔を探訪します。また、この銘石の石切場も見学したいと思います。

[案内：滝本やすし]

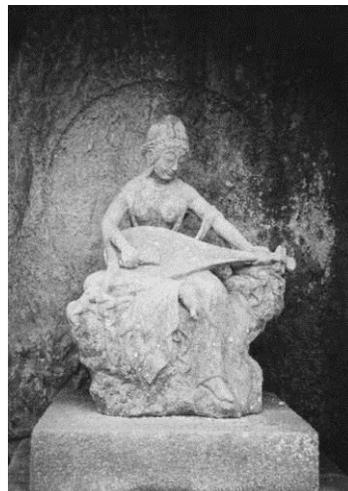
- ◎向本折町 共同墓地／干体仏供養塔1対
 - ◎牧口町 牧姫塚(蟬丸塚)／五輪塔、光導名号塔、灯籠
 - ◎栗津町 大王寺／弘法大師、不動明王、西国三十三ヶ所観音、不空羼索観音、愛染明王
 - ◎那谷町 那谷寺／西国三十三ヶ所観音、弥勒菩薩、弁財天、毘沙門天、不動明王、愛染明王、青面金剛(庚申)、七重石塔
 - ◎那谷町 三光院／光導名号塔(共同墓地内)
 - ◎滝ヶ原町小字牧 滝ヶ原石採石場／坑道掘りの採石場
 - ◎滝ヶ原町小字下 八幡神社／五重石塔
 - ◎観音下町 日華石採石場／露天掘りの採石場
 - ◎観音下町 観音山／西国三十三ヶ所観音
 - ◎観音下町 白山神社／灯籠、層塔、五輪塔群
- ※諸事情により見学場所を変更する場合があります。



滝ヶ原石採石場



大王寺 不空羼索観音



那谷寺 弁財天



日華石採石場

平成23年度会費を、同封の振替用紙にて納めてください。年会費は3,000円です。研究紀要第10号の正誤表および訂正シールを同封しました。ご利用ください。